

---

# スイミングスクール

チャイルドキャプター

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

スイミングスクール

### 【Nコード】

N7094B

### 【作者名】

チャイルドキャプター

### 【あらすじ】

あたしの水泳へのきもち。詩みたいなもんです。よかったらよんでくださいねw

あたしは小学二年生の時にスイミングをやり始めた。

みんなとは遅いスタートだったが今日まで8年間やりとおした。

はじめクロール・背泳ぎ・平泳ぎ・バタフライなんて泳げなかったの……。

泳げるようになった。

途中で友達が辞めていくのを見て水泳をやめようとはおもわなかった。

だって水泳すきだもん。

単純だけど、本音。

そして今。

スイミングを引退する。

年齢制限により、退会。

もっともっと、スイミングしたい。

そこでやりたかったのにな。年齢がなんだよ。年齢なんて関係ない。

やりたいことがあれば、やればいいのにやれない。

これから隣の市の高校に行く。

スイミングスクールともお別れだ。

辛いことや悲しいことよりも楽しいことばかりだった。

タイムがあの子よりも遅かったら、悔し泣き。

タイムが自己ベストより速くなったら、うれし泣き。

ともかくスイミングがあたしの中心だった。

確かに週に一度だけだったがその時だけ楽しかったような気がする。

水の中で呼吸。水の中で足をばたばた。水の中で手をうごかす。

水泳って全体運動。

すっごく疲れる。けど、あたしの一番のスポーツ。

水泳はあたしの宝。

親に「あんた、高校は入ったら何部にするの?」

中学の時は剣道部。けど、今やりたいことは水泳。

だから

「水泳部。」

なのだ。

けど、これで終わりじゃない。

あたし3年後戻ってくるから。

コーチになって、スイミングスクールに戻ってくるから。

だからそれまでスイミングスクール。

ちゃんとあたしをおぼえてて。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7094b/>

---

スイミングスクール

2011年1月27日03時49分発行